2026 年 10 月 30 日
株式会社みずほ銀行

富士山 GX ホールディングス株式会社に対する「Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス PRO」の実行について

株式会社みずほ銀行（頭取：加藤 勝彦）は、本日、富士山 GX ホールディングス株式会社（代表取締役会長：粟井　英朗、以下「富士山 GX ホールディングス」）に対して、「Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス PRO」（※1、以下「本商品」）を実行しました。

本商品は、ポジティブ・インパクト金融原則（※2）に基づき、独自に開発したインパクト評価フレームワークを用いて、お客さまの社会や環境に対するポジティブおよびネガティブなインパクトをみずほ銀行が包括的かつ定量的に評価し、ポジティブなインパクトの創出を意図するお客さまに対して融資を行うサステナブルファイナンス商品です。
みずほ銀行は、継続的なモニタリングやポジティブ・インパクトに関する KPI 達成支援、ネガティブ・インパクトのコントロール支援等、エンゲージメント（建設的な対話）を通じて、お客さまによる取り組みの促進を支援します。

富士山 GX ホールディングスは、「知行合一・社会貢献・共存共栄」の企業理念のもと、グリーントランスフォーメーション（GX）の実現を経営の中核に据え、持続的な企業価値の向上と地域社会との共存共栄を図っています。具体的には、省エネルギー・脱炭素、資材ロス・廃棄物の削減、健康経営および女性活躍の推進、FSSC22000 に基づく品質管理による安全・安心な水の提供等に取り組み、環境・社会課題の解決に資するサステナビリティ経営を推進しています。

みずほ銀行は、富士山 GX ホールディングスのマテリアリティ（重要課題）への取り組みを中心にインパクトを特定し、KPI を別紙の通り設定しました。

なお、本件評価に関して、株式会社日本格付研究所（JCR）より、ポジティブ・インパクト金融原則や、環境省の「インパクトファイナンスの基本的考え方」に適合する旨の第三者意見書を取得しています。（※3）

多様な社会・環境課題が、人々のウェルビーイングに加え、企業の事業活動に影響を及ぼしている中、〈みずほ〉は、社会や環境に対するポジティブ・ネガティブ双方のインパクト

を、ビジネス上の意思決定の重要な要素と捉えています。お客さまとともに、インパクトと収益の創出による好循環を実現し、社会・環境課題の解決と企業価値の向上をめざします。

＜案件の概要＞

融　　資　　先：富士山GXホールディングス株式会社
契　約　金　額：20億円
資　金　使　途：長期運転資金
実　　行　　日：2026年10月30日
期　　　　間：5 年
Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス PRO 一次評価書
(https://www.mizuhobank.co.jp/corporate/finance/growing_field/pif_pro/pdf/2026_01.pdf)

※1：「Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス PRO」の商品概要にかかるウェブサイト
https://www.mizuhobank.co.jp/corporate/sustainability/pif_pro/index.html

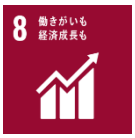
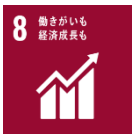
※2：ポジティブ・インパクト金融原則
国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）（※4）の銀行および投資メンバーであるポジティブ・インパクト・ワーキンググループが2017年に発表したSDGs達成に向けた金融の共通枠組みであり、持続可能な開発の3側面（環境・社会・経済）について、ポジティブ・ネガティブの両面からインパクト評価を行う包括的内容となっている。また、UNEP FIはインパクト特定のツールとして、気候の安定性、水域、エネルギー、生物種、生息地、文化と伝統など34のインパクトエリア/トピックからなるインパクトレーダーを提示している

※3：株式会社日本格付研究所のウェブサイト
https://www.jcr.co.jp/greenfinance/

※4：国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）
1992年の地球サミットに続き、持続可能な金融を推進する目的で設立された、国連環境計画とグローバル金融セクターとのパートナーシップ

以　上

別紙

特定されたインパクト	KPI	SDGs 17の目標
健康および安全性 （ネガティブ）	【KPI】（単体かつ単年度の目標） ・「健康経営優良法人」：毎年度、認定維持	
ジェンダー平等 （ネガティブ）	【KPI】（単体かつ下記の時期までの目標） ・女性管理職の割合： 2030年3月31日までに30%以上	 
気候の安定性、 資源強化 （ネガティブ）	【KPI】（単体かつ下記の時期までの目標） ・原油換算のエネルギー使用量： 2028年4月期に5%削減（2026年4月期比）	 
資源強度、 廃棄物 （ネガティブ）	【KPI】（単体かつ下記の時期までの目標） ・資材のロス率 7.2ℓパック：2028年4月期に2.8%以下 4.7ℓパック：2028年4月期に1.8%以下 成形ボトル：2028年4月期に6%以下 ボトル充填に係るロス：2028年4月期に0.1%以下	
健康および安全性 水 零細・中小企業の 繁栄 （ポジティブ）	【KPI】（単体かつ各時期までの目標） ・売上： 2029年4月期に10%以上増加（2026年4月期比） ・「FSSC22000」：毎年度、認定維持	 